

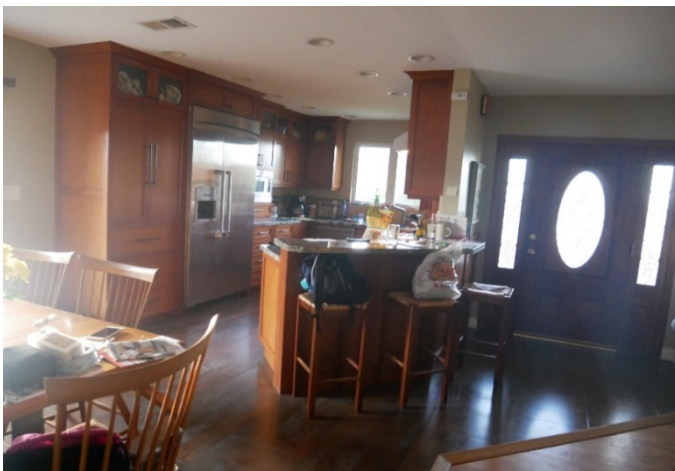
アメリカの家の特徴

岸田 佳奈（大学2年）

私が今回の派遣プログラムにおいて、最も興味を持ったのは「家」である。以前大学の授業で、親と子供の寝方における日米の違いについて学んだ。アメリカでは子供は小さい頃から自分の部屋を持ち、両親とは別室で寝るのに対し、日本では両親と子供が同じ部屋で寝る割合が高い。トランス生に聞いてみると、ほんの一歳の時でさえ自分の部屋を持ち、そこで一人で寝ていたと言っていた。大学で学んだことを実証することができ、さらに家における日米の違いを知りたいと思った。実際、家の外観から中の間取りまで日本とは何もかも違っていった。これから私が見つけた様々な家の違いを具体的に述べていきたい。

トランスには一戸建ての家が多く、通りに沿って並んでいる。逆に、ロサンゼルスのような大都市にはマンションやアパートが多かった。今回は一戸建ての家の特徴について述べていきたい。まずは外観だ。日本の家のデザインは統一感があり、家の壁の色や形からみえる違いはあまり感じられない。分譲住宅が多いからだろう。アメリカではすべての家に個性がみられる。家の壁の色はどの家もカラフルで庭の手入れも怠らない。また、日本は二階建て、三階建ての家が多く、上に高いというイメージだ。これは日本では土地が狭いため、二階建て、三階建てにして延べ面積を得ていると考えられる。逆にアメリカの家は平屋建てが多く、横に広いイメージだ。これはアメリカでは土地が広いから、平屋建てでも十分な延べ面積を得られるからだ。私の第一、第二ホストファミリーの家はどちらも二階があったが、屋根裏部屋のような物置として使われている小さな部屋であったり、両親の寝室と浴室があるだけで、日本の一戸建てにある二階のようにたくさんの部屋があるわけではなかった。

次に家の中について述べていきたい。まず、アメリカの家には玄関がなく、ドアを開けるとそのままリビングになっている。靴を脱ぐ必要がないからだ。アメリカの人々は家の中も靴を脱がず生活するという



のが日本人の固定観念だが、私の第一ホストファミリーはインド系の家族で、家の中は室内用のサンダルを履いて生活していた。日本のスリッパのようなものだ。第二ホストファミリーは土足の時もあれば、裸足の時もあった。アメリカ在住の全ての人々が室内でも土足で生活しているわけではないことがわかった。キッチン、ダイニング、リビングはそれぞれがとても広くオープンに設置されている。壁や仕切りが一切ない。家族との時間を優先にするアメリカ人の考えがよく反映された設計であると思う。私がトランスでホストファミリーと生活している時

も、私が帰宅し自分の荷物を部屋に置くと、キッチンのカウンターに集まり、おやつを食べながら談笑した。お母さんはキッチンで料理を作りながら会話に参加することができる。そのまま夕食の時間になり、ダイニングで家族と食事をとると、そのままリビングに移動し、みんなで映画鑑賞をする。この流れを簡単にできる設計になっている。最近では、この「オープンプロアプラン」と呼ばれる家の設計がアメリカで主流になっているようだ。また裏庭には机とイスが置いてあって、外でちょっとしたピクニックをすることもできる。そこで食事をとってから裏庭につながるガレージの車に乗って、家族でドライブに行くことができる。私のホストファミリーはサンセットを見によくドライブに連れて行ってくれた。裏庭で夕食をとってからトランスの街並みが一望できる丘までドライブして、サンセットを見に行った。途中ジェラートを買って家に帰り、リビングでジェラートを食べながらみんなで映画を見た。約1か月ホームステイすることで家族と過ごす時間を作り出す空間を肌で感じる事ができた。家族との時間を大切にアメリカの国民性やそれに属したアメリカの家が私は大好きだ。